

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
副教材(出版社)	家庭科ノート、調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「生活の自立及び消費と環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」で構成。内容は、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。				
授業の目標	人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	○HP・家庭クラブについて 1 自分らしい人生をつくる (1) 青年期の課題 (2) 家族・家庭をみつめる 2 経済生活を営む (1) 国民経済・国際経済と家庭経済 (2) 消費行動と意思決定 3 住生活をつくる (1) 住生活の計画と選択 (2) これからの住生活 ○HPについて	・家庭科で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 ・自立することの大切さ、自己実現について考える。 ・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見通す。 ・男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 ・経済と家計との関係を理解する。 ・消費行動における自分の意思決定の重要さとそのプロセスを理解する。 ・キャッシュレス社会について考え、契約や消費者問題について、適切な判断ができるようにする。 ・住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ・ライフステージに合った住居を考える。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学期	○HPの発表 4 高齢社会を生きる (1) 高齢期を理解する (2) これからの高齢社会 5 共に生き、共に支える (1) 私たちの生活と福祉と共生社会 6 子どもと共に育つ (1) 子どもの育つ力を知る (2) 親として共に育つ (3) これからの保育環境 7 衣生活をつくる (1) 衣服の役割を考える (2) 衣服を入手し、管理する	・ホームプロジェクトで調べたことを各クラスで発表する。 ・高齢社会の現状と課題・福祉制度と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・共生社会の理念を理解し、ユニバーサルデザインを考える。 ・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。 ・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ・児童福利の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・被服の様々な役割を整理する。 ・被服材料の特徴を理解し、汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。		
	3 学期	8 食生活をつくる (1) 食生活について考える (2) 食事と栄養・食品 (3) 食生活の安全と衛生 (4) 生涯の健康を見通した食事計画 (5) これからの食生活 (6) 調理の基礎 ○調理実習 ①～③	・日常の食生活を振り返る。 ・食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作ることができるようになる。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などの充実向上を目指して、実践的な態度を身に付けようとしているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活など、生活を充実向上するために必要な知識を身に付けているか。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				